【KT－report 20】　吾が「上桜田いきいきサロン」；その２

【KT－report 14】の続き（関連する）のこと。

2025（Ｒ７）年５月１日（木)、吾が町内会の知人方にお邪魔し、令和７年度に就任した福祉部長を交えて懇談した時に、老荘青から魅力ある集会（サロン）だと称されるための一つの方策、老荘青の交流の場としてスマホ勉強会がとても有益だと話題になった。　何とその月末に下図のとおりの記事に出会った。私達の懇談は今時の普通の感覚であることが証された。同サロンの令和７年度活動計画を見ると長年の過年度コピー、旧態依然である。担当者が交替したならばとりあえず前任者の計画は是としよう。

しかし・・・。人事異動は何のためにやるのか、その時のキーワードは「温故知新と不易流行」、従来・従前踏襲は２割、残り８割はまったく新しい取組みを期待されるからである。令和７（2025）年の騒動における小泉農林水産大臣の即断・英断は“やればできるじゃないか！”の象徴である。政策によって数年の審議機関も必要であろうが、昨今の情報社会の目まぐるしい変革を踏まえれば、「もの・こと」の８割は「思考 10 日決断一瞬」で決定出来るのではないか。

ならば、吾が町内会「上桜田いきいきサロン」については、少なくとも７月以降（残り３四半期９か月）の行事は新鮮味のある内容にバージョンアップして欲しいと願うものである、お手並み拝見である。

2025(R7)/05/30(金)山形新聞

「スマホ道場」 遊佐

世代間交流の場

協力隊・渡辺さん企画

高校生が指導、高齢者に好評

高校生が先生役となり高齢者などにスマートフォンの使い方を教えつつ、交流する場が遊佐町にある。仕掛け人は町地域おこし協力隊で、スマホに関する悩みを解決する「スマホ道場」を開く渡辺真央さん(30)だ。高校生は「お世話になっている地域の方に恩返しをしたい」との思いで取り組む。利用者からは「優しく教えてもらえて良かった」と好評を集める。

スマホ道場は約2年半前に渡辺さんが始め、町内のまちづくりセンターを巡って相談に乗っており、利用者は延べ2千人を超えた。地域の人と交流する場としても機能しており、渡辺さんは、講師に若者も加わってもらうことで、世代間交流ができると考えた。

高校生が集まる同町の「おでこBASE」で勧誘したところ、いずれも地域みらい留学を利用して遊佐高に通う県外出身者で、2年の佐野結人さん(16)、萩原瑞穂さん(16)、松本杏彩さん(16)の3人が応じた。「町に来て1年となり、日頃から地元の方に支えてもらっている。地域に何か還元したいと思っていた」と参加理由を話す。

3人が講師を務めるスマホ道場は今月17日と24日、おでこBASEで開かれた。生徒は利用者にカメラの設定などを手ほどきした。道場をよく利用している大宮正子さん(75)は「世代が違う私にも分かりやすく教えてくれた。生徒と話していると元気がもらえる」とにっこり。スマホに関すること以外の話題でも盛り上がり、3人は「少しでも力になることができて良かった。地域のことや昔話を知ることができた」と話していた。（山崎元太）

スマホの使い方を高齢者に教える高校生＝遊佐町・おでこBASE

（end）